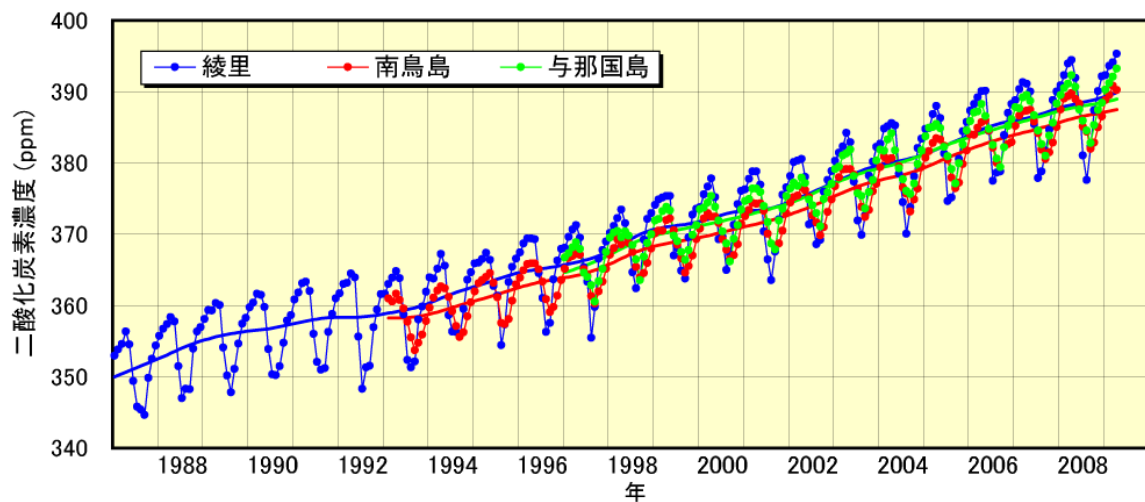


## 2009年4月までの日本の大気中二酸化炭素濃度について

気象庁が温室効果ガス観測を実施する国内観測地点において、2008年の年平均大気中二酸化炭素濃度は過去最高となりました。また、2009年3月～4月の大気中二酸化炭素濃度は、観測開始以来の最高値を記録しました。

気象庁は、岩手県大船渡市綾里、東京都小笠原村南鳥島、沖縄県八重山郡与那国島の国内3地点で、大気中の二酸化炭素濃度の観測を実施しています。これらの観測の結果、2008年の年平均値は3地点でそれぞれ388.5ppm、386.6ppm、388.0ppmとこれまでで過去最高となりました。この10年間では1.9ppm/年の割合で増加を続けており、国内で最初に長期連続観測を開始した綾里においては、観測開始時（1987年）より、37.3ppm濃度が増加しています。

また、年間で最も二酸化炭素濃度の高くなる春季において、今年3月～4月の観測値は、それぞれ395.3ppm（綾里、4月）、390.8ppm（南鳥島、3月）、393.2ppm（与那国島、4月）と、すべての観測点で観測開始以来の最高値を記録しました。



図：綾里、南鳥島および与那国島における大気中二酸化炭素月平均濃度およびその季節変化成分を除いた濃度の経年変化（ppm:百万分の一）

### 【本件に対する問い合わせ先】

気象庁地球環境・海洋部環境気象管理官付

全球大気監視調整官 電話：03-3212-8341（内線：4112）